

第1章 人口ビジョン（案）【概要版】

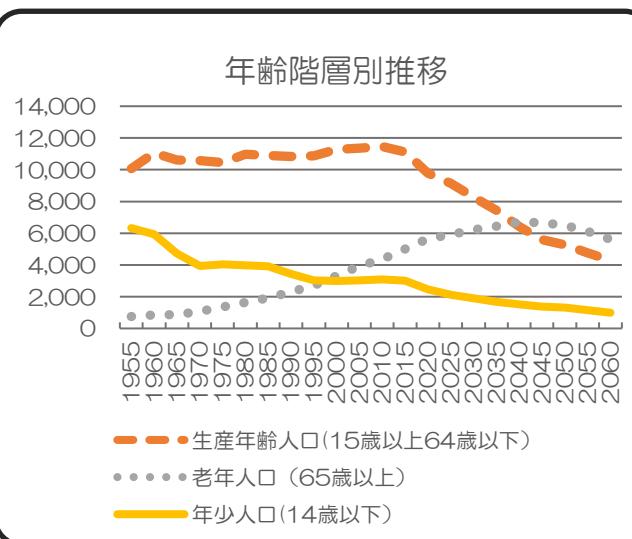
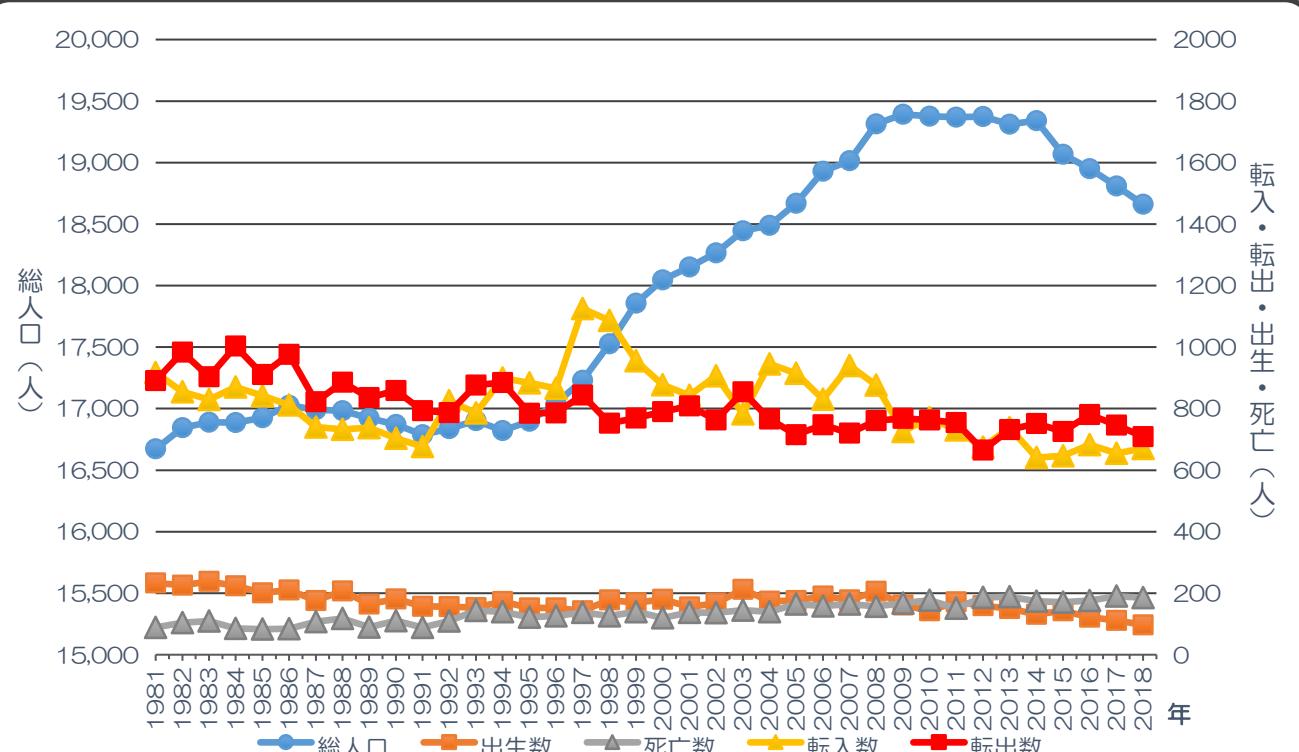
1 人口の現状

①自然増減

2008年（平成20年）まで、ほぼ横ばいで推移してきたが、出生率の低下・母親世帯人口の減少の影響もあり、出生数が減り続けている。その一方で、高齢者数の増加により、死亡者数が微増となっており、「自然減」の時代に入っている。

②社会増減

1993年（平成5年）までは、転出が転入より多かったが、1995年（平成7年）以降は、2008年（平成20年）まで、ほぼ転入が転出を上回っている状況であった。しかし、2014年（平成26年）以降は転出が転入を上回る状況が続いている。



芽室町は2016年～2018年のデータ未確定（2016年データは近日中に判明）

2 人口の将来展望

自然減、社会減の傾向がこのまま続ければ、2060年（令和42年）の人口は10,892人まで減少【国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計準拠】

【人口減少の影響】

- ◇生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小、基幹産業の衰退
- ◇老齢人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の負担増
- ◇年少人口減少に伴う地域活力の低下、地域文化の継続困難

めざすべき 将来の方向

- 芽室らしさを再認識し、新たな雇用の場を創出する。
- 誰もが活躍できる社会づくりを進める。
- 子育て世帯が暮らせる環境を整え、新たな人の流れをつくる。
- 出生率向上のため、阻害要因を取り除く取り組みを進める。
- 住み慣れた地域で、安心して住み続けられる地域づくりを進める。

【将来展望の仮定】

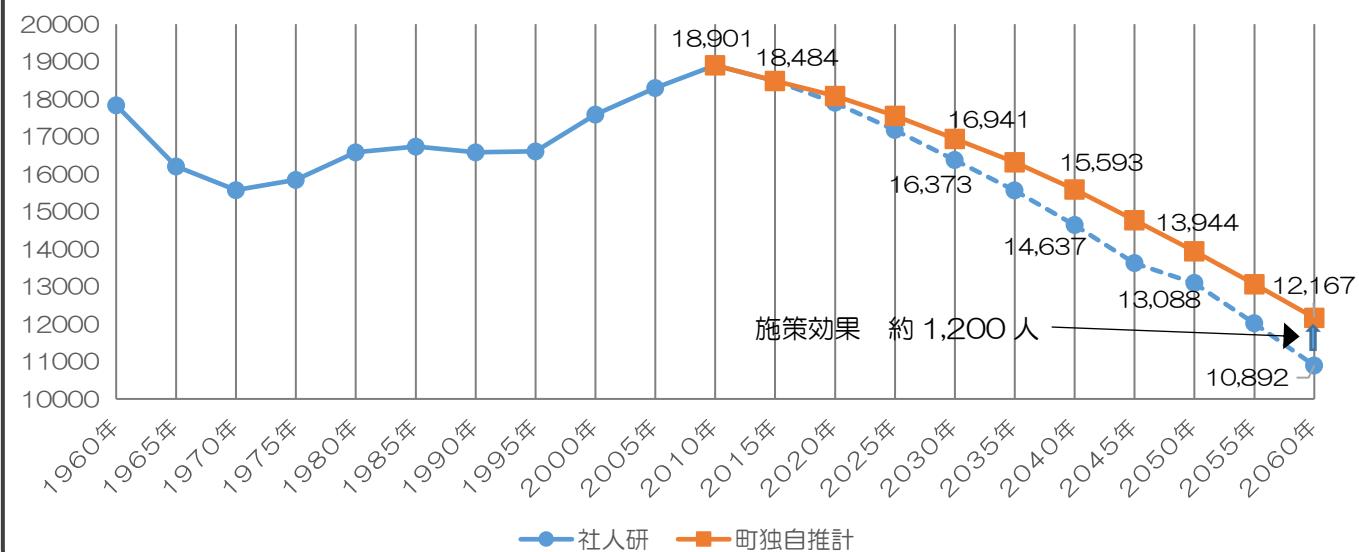
- ◆合計特殊出生率
現在の1.63の維持を目指しつつ、長期的には2.07を目指す。
- ◆社会増減
定住対策による転入増

【将来展望】

◆2060年の人口12,167人

※2060年社人研推計より約1,200人の人口増

町の人口の推移と長期的な見通し



第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン・総合戦略）の全体像

第2章 総合戦略（案）

【戦略期間：令和2～6年度】



※KPI（Key Performance Indicator）。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。